

水戸協同病院

皆さまと
病院を結ぶ
情報誌

すまいるみと

メタボリックシンドローム

特定健診・特定保健指導

健康管理センター 津久井



「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、平成二十年四月から実施された特定健診・特定保健指導はメタボリックシンドロームの対象者・予備軍を選定し保健指導を行うことで、生活習慣病の予防を徹底するもので、「医療費適正化の総合的な推進」に位置づけられています。実施主体は、国保、健保、政管など各医療保険者で、四十歳から七十四歳の保険加入者（被保険者・被扶養者）に対し、生活習慣病に関する健康診査・保健指導を行います。各医療保険者での保健指導の結果は、生活習慣病の有病者・予備軍の改善の度合いで評価され、これを指標に平成二十五年度から後期高齢者支援金の負担額のプラスマイナス十％程度の加算・減算が考えられています。負担額の加算が見込まれる、保健指導の改善率が思わしくない医療保険者は、保険加入者個人に一定の「負担」を及ぼしかねないとの指摘もあります。

平成十八年の人口動態統計の年間推移によると、年間死亡数約一〇八万人のうち悪性新生物による死亡が三十％の三十三万人で第一位、生活習慣病・動脈硬化に関係する心疾患が第二位で十七万人、脳血管疾患が第三位で十三万人でした。メタボリックシンドロームで目標となるものは、第二位と第三位で全体の死亡の二十五％に相当します。がん死亡の制御ももちろん重要ですが、生活習慣病は飽食・運動不足が原因の「肥満」が基本にあり、日常生活の見直しで罹患・死亡を減らさうる病体と考えられ対象疾患となりました。メタボリックシンドロームの診断基準の基礎は「肥満」であり、内臓脂肪（腹腔内脂肪）の蓄積をまずウエスト径（腹囲）で測定し、脂質異常、高血圧、高血糖の三項目のうち二項目以上が該当するものを「基準該当」、さらに「予備軍」の選定や検査数値の程度（保健指導判

定値、受診推奨判定値）により、また年齢による「階層化」を行います。生活習慣病の程度と階層化による保健指導レベルは、情報提供レベル（健診を受けていただき、ありがとうございます。来年もぜひ受けてください）、動機付け支援レベル、積極的支援レベルの三段階が設定されますが、六十五歳〜七十四歳では、関連リスクが多くても動機付け支援（原則一回の支援・一度お話ししましょう）どまりであり、積極的支援（三か月以上の継続的支援・半年間おつき合ひしましょう）はありません。この特定健診・特定保健指導の対象外には、一・高血圧・糖尿病・高脂血症で薬物治療中の方、および 二・腹囲も体容積指数・体格指数・BMI（body mass index）も引つかからない方です。喫煙の有無もリスクに算定されますが、脂質・血圧・血糖のうち一項目以上がない方は加算されません。日本の喫煙人口は二六〇〇万人でたばこ関連死亡は十一万人を超えています。禁煙を徹底することは、自分の、また周りの方々の健康被害を防ぐためにも大切です。当院では、「禁煙外来」を始めました。たばこ依存と考えられる方には医療保険での適用がありますのでご利用ください。日本医師会では、メタボリック症候群の標語を、一に運動、二に食事、三に禁煙、最後にクスリとしています。

（平成二十年九月二十五日）



地域医療への貢献のため連携

水戸協同病院内に筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター設置

茨城県厚生連（会長・市野沢弘）と筑波大学（学長・岩崎洋一）は、来年4月に水戸協同病院（院長・平野篤）内に「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」を開設することに合意し、去る11月7日に筑波大学にて調印式を行いました。

調印式で岩崎学長は「筑波大学と茨城県厚生連の協定締結により、地域における医療福祉の向上へ貢献を果たしていく」と挨拶し、また、市野沢会長は「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターが茨城県における地域医療の後方支援として、医師の人材育成・供給の拠点となり活動することは茨城県における地域医療に多大な貢献をすることを確信している」と述べ、地域医療に全力で取り組む姿勢を改めて表明しました。

今回、全国に先駆けて初めての国立大学と一般病院の連携が実現し、水戸協同病院内に地域医療を担う医師の育成拠点が設置されることになりました。センターが本格的に稼働すると、



写真＝調印を終え握手をする岩崎学長（左）と市野沢会長（右）

水戸協同病院においても医師数が増え地域医療への取り組みがさらに強化されることにも繋がり、同時に、筑波大学としても開学の理念である「地域への貢献」を達成するための足がかりとなり、双方にとっての理想実現にむけた取り組みとなります。

平野院長は、「まずは診療科を増やし各科の診療レベルを高め、より地域に密着した医療機関を目指したい」と抱負を述べています。

新任医師紹介

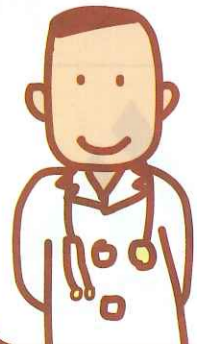


消化器外科
科長
渡辺 基信

10月より消化器外科科長として赴任いたしました、医師13年目の渡辺基信です。

消化器・一般外科、また乳腺外科を担当させていただきます。水戸協同病院は今後医療体制の充実が期待されており、交通至便な本病院の地域医療における役割はますます大きくなるものと考えております。この水戸市を中心とした県央地区のお住まいのみなさまの健康増進に貢献できるよう精一杯頑張らせていただきますので、よろしくお願ひ致します。

診療受付時間及び診療担当医一覧表の変更について(追加)



下記の通り、10月15日(水)より、新任医師(非常勤)が診療を開始しておりますので、お知らせ致します。

- 診療科：婦人科
- 担当医：横田 知夫よこた のりお
- 診療日：毎週水曜日(午前)

ボランティア活動への感謝状

病院ボランティア活動も本年で6年目を迎えました。

10月30日、平成14年当初から活動していただいた6名の皆様を今回初めて表彰いたしました。表彰終了後交流会が開催され、病院長より診療環境の整備、地域に根ざした質の高い医療提供を目指していることや、患者様とのパイプ役になり献身的にボランティア活動をして下さっている皆様に感謝の言葉を述べられました。

ボランティアの皆様より日頃の活動を通じての病院に対する思い、活動でのエピソードなどの紹介、ボランティア活動で「教えていただく事や学ぶこと、少しでも社会との関わりが持てるのが楽しい」という声も聞かれました。

相手を思いやる気くばりやこころくばり、日頃熱意ある社会活動に感謝するとともに、選ばれる病院でありたいと思います。

生まれ変わります！1階外来フローア

今年6月から患者様のプライバシーの保護、狭い診察室の拡張などアメニティの向上を目的に、総合診療部（外科・内科）の改修工事を行ってまいりました。今までの診察室が、工事期間中は変更になるなど、患者様には、ご迷惑をお掛けしました。

すでに内科・外科ともに完成し、新しい外来で診療を開始しております。内科は中待合室のスペースが狭くなりましたが、診察室が広くなりゆったりと診療が受けられます。診察室と中待合室



の仕切りがカーテンからドアに変わり、プライバシーの保護に努めます。また中待合室と廊下の仕切りを、ローパーテーションにして明るいイメージの外来に生まれ変わりました。外来が綺麗に改修されても、患者様にとっての最大のアメニティは、スタッフの思いやりの心だということをお忘れずにいたいと思います。

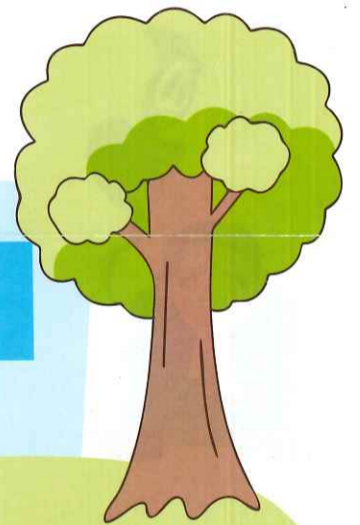
柏 利子



患者様のため 地域住民のため

そして、スタッフのための病院へ...

総合病院 水戸協同病院 看護師募集



2009年4月より、水戸協同病院内に「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」が設置されます。筑波大学附属病院と水戸協同病院の連携により、医師数の確保と診療の質の向上を実現します。それに伴い、設備の改修も行います。既にCT、内視鏡などは国内トップレベルの最新機器を導入しています。また新棟の建設も近々着工予定です。

どうです？ 私達と一緒に、明るい医療を実現しませんか？

労働条件

◆ 給 与：当連合会給与規程（含退職給与規程）による

	看護師	保健師
短大3卒	206,230円	208,940円
専門学校		(養成1年)
4大卒	212,300円	212,300円

(平成20年度の給与額で基本給と固定的諸手当を含む)

- ◆ その他諸手当：住宅手当、通勤手当等あり
- ◆ 賞 与：3年間の平均 年4.47カ月
- ◆ 社会保険：健康保険、厚生年金、労働保険
- ◆ 休日及び休暇：日曜日、毎月第2・4土曜日、祝日、夏期5日、年末年始6日、年次有給休暇20日



【お問い合わせ】

〒310-0015 茨城県水戸市宮町3-2-7
TEL 029-231-2371(代)
看護部長または庶務課まで
HP <http://www.mitokyo-do-hp.jp/>



茨城県厚生連